

いちき串木野市温室効果ガスの排出傾向（2024年度）

本市では、地球温暖化対策の推進に関する法律第21条に基づき、2009（平成21）年度に「いちき串木野市地球温暖化防止活動実行計画」を策定し、市で実施する事務事業について、環境配慮の徹底や温室効果ガスの排出抑制などを図ってきました。

本計画は、そうした前計画を踏まえ、「低炭素社会」を築くため、市が率先して取り組むことが責務であるとの認識のもとに、本市が達成すべき目標を定めたものです。

計画の期間は、2019（平成31）年度から2030年度までの12年とし、達成目標については2013（平成25）年度の実績を基準に設定します。また、概ね5年で本計画の改訂を行います。

これまでの市の事務事業から排出される温室効果ガスの変動を見ると、2024年度は2013年度と比較して約18.3%減少しています。

表1 温室効果ガスの排出傾向と削減目標

項目	2013年度 実績 (基準年)	2019年度	2021年度	2023年度	2024年度	2030年度 目標	主な発生源
二酸化炭素 (CO ₂)	5,792	5,112	4,775	4,834	4,688	3,237	電気使用、燃料使用、自動車燃料
メタン (CH ₄)	49	46	45	50	51	43	自動車走行距離、一般廃棄物焼却量、下水処理量
一酸化二窒素 (N ₂ O)	269	257	243	250	250	252	
合計	6,109	5,415	5,063	5,134	4,989	3,532	
2013年度 (基準年)比	0.0%	-11.4%	-17.1%	-16.0%	-18.3%	-42.2%	
前年比					-2.8%		

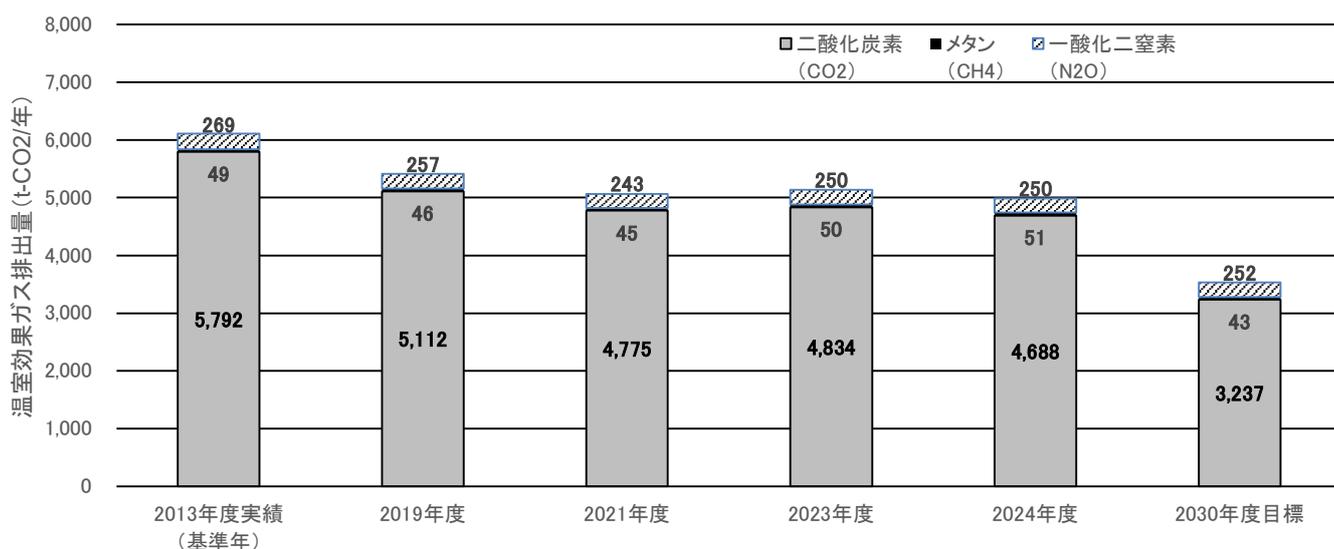


図1 温室効果ガスの傾向と削減目標

補足

(1) 二酸化炭素排出量(CO₂)

二酸化炭素(CO₂)排出量は前年度比で約3.0%減少しています。
この要因は電力の排出係数が小さくなったためと考えられます。

(2) メタン(CH₄)・一酸化二窒素(N₂O)排出量

メタン(CH₄)排出量は前年度比で約2.1%増加しています。また、一酸化二窒素(N₂O)排出量は約0.0%で横ばい
です。

その要因は、公用車の総走行距離が約2.5%減少していますが、メタン排出量への寄与が大きい下水処理量が
前年度比で約3.8%増加しているためと考えられます。